



アワビ養殖の世界一生産国 オーストラリアの最新情報

from アントニオ モスケイラ



JIFASのコンサルタントであるアントニオ モスケイラ氏（オーストラリア漁業省）から、オーストラリアにおけるアワビ養殖業界の状況を知らせる下記メッセージがきています。

JIFASの皆様お元気のこと
と思います。私はこの数週間、
養殖事業キャッシュフロー作
成のための最新情報を取得す
るべく、数人のアワビ養殖業
者と言葉を交しました。結果
は良好で、ほぼ完成に近づい
ています。業界全体の現況に
関する調査結果の一端を皆様にお知らせいたします。



① アワビ養殖場はその大半が技術的難問を解決して、極めて順調に進展し、かつ、生産量も堅調に増加しています。

② 4年から5年を経過した大半の養殖場は年平均で40/60トン販売しているため、初期投資は既に完済し、かつ、日常の運営コストを賄っています。大半の養殖場では今後数年間にわたり相当の利潤を得られるものと楽観的であります。

③ 養殖場の大半は50トン/年生産を目標としており、また、わずかに5-6社程度が100トン超達成を目標とし、かつ、数社が200トン/年達成を計画しています。

④ 大半の養殖場はブラックリップとグリーンリップアワビの「ハイブリッド（混成種）」生産に集中しています。このアワビは同一の殻長のブラックリップアワビより若干個体重は軽いですが、成長が良好であると考えられています。

⑤ 「ハイブリッド」は加工用として主として缶詰工場に販売され、また、出来た製品は中国市場に販売されています。

⑥ わずかに2-3社のみが輸出用として純粋のブラックリップアワビを生産しています。

⑦ 養殖場の大半はブラックリップの生産に先に説明した「スラブタンク」を使用しています。ブラックリップを生産する養殖場はハイドシステムを愛好しています。

⑧ 大半の養殖場はアワビ生産のナーサリー、もしくは、初期稚貝段階中にのみパイプシステムを使用しています。

⑨ 「シード」アワビ（例えば、10-30mm）の価格は相当に下落しています。過去数年間は極めて高値となるper-mm（mm当り）ベースで販売されていましたが、現在はper-kg（重量当り）ベースで販売されているところから、「シード」アワビは手頃な価格で入手が可能となり、従い、建設されるハッチャリーの数が減っています。

⑩ 現行の「シード」と商業サイズの活アワビの価格は両者とも「養殖場渡し（farm gate）」条件でAUS\$35/kgであります。

⑪ アワビ養殖業者は団結してアジア全域へのアワビマーケティングを行っています。

⑫ アワビ養殖業者は最近ますます秘密主義的となり、現場視察を許さない、もしくは、養殖場運営に関する諸局面のあから（次のページに続く）